

選定基準別提案内容と事業実績の確認

施設名	おだわら諏訪の原公園
指定管理者名	おだわら諏訪の原公園パートナーズ
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設所管課	都市公園課（県土木事務所小田原土木センター）

評価項目					審査（評価）の視点 (C)	提案内容 (D)	指定期間 令和4年度の事業実績 (E)	所管課による課題分析等 (F)	事業実績の確認方法 (G)			
選定基準 大項目	選定基準中項目 (A)	小項目 (B)	配点	選定時の 評価点					実績報 告書	現地※	その他	
I サービスの向上	(1) 指定管理業務実施にあたっての考え方、運営方針等	基本姿勢及び管理運営方針	5	4	指定管理業務全般を通じた団体等の総合的な運営方針、考え方	○ 団体等の総合的な運営方針について「安全を第一に、安心で快適な環境とサービスを提供」「公平・平等でホスピタリティあるサービスを提供」「公園の特性を活かした魅力づくりを展開」「県民と多様なステークホルダーと協働」「関係者全員がコンプライアンス意識をもち、信頼あるサービスを提供」「公園と地域社会のサステナビリティの実現」に取り組む。	事業計画どおり実施 ・毎週、行動規範、当園における重要な順守事項、禁止事項、コンプライアンスマニュアルの項目の読み合わせを行った。	・提案で示す本公園の運営方針の共有を図っており、今後も業務実施にあたっての意識の共有を継続していくよう望まれる。	○		○	月例業務報告
					公園固有の価値や特性を踏まえた管理運営方針	○ 公園固有の価値や特性を踏まえた管理運営方針として「だれもが快適で心あたたまる、ヘルスケア交流拠点」を掲げ、「利用者とのコミュニケーションによる公園づくり」「小田原フラワーガーデン、周辺施設との連携による公園づくり」「未病改善に取り組む公園づくり」「多様な人材、団体、地元の方々との連携による公園づくり」「公園の特性を生かした楽しめる公園づくり」に取り組む。	事業計画どおり実施 ・小田原フラワーガーデンと合同で年4件のイベントを実施し、双方の広報活動でも連携した。 ・神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会の加盟施設として、ミュージアム・リレー（ミュージアム連絡会の加盟施設同士で時間帯が被らないよう行うイベント）で連携した。	・提案内容のとおり、公園が立地する地域の特性を活かした広域イベントへの参画や隣接施設との連携に取り組んでいる。 ・これらの取組は、公園の利用や魅力を高めるために有効であることから、引き続き連携の強化に努めてもらいたい。	○	○	○	月例業務報告
					利用者や地域住民、環境等に配慮した管理運営方針	○ 管理運営方針は以下のとおり。 ・誰もが安全・安心に利用できる公園づくり ・多様な利用者に応えるおもてなしサービス ・快適な利用のための公園づくり ・地域と共に公園の魅力の向上、地域活性化 ・自然環境に配慮した公園づくり	事業計画どおり実施 ・小田原消防署への通報訓練を含む防災訓練を年2回実施し、小田原フラワーガーデンと合同の防災体験イベントを小田原警察署と神奈川県警音楽隊の協力で実施した。	・提案内容のとおり、引き続き安全・安心で快適な利用環境の維持や地域に根差した公園の運営に努めてもらいたい。	○		○	月例業務報告
					業務の一部を委託する場合の考え方、業務内容等（委託先の選定方法、県内（地域）企業への委託の考え方）	○ 大規模作業、専門的な知識や資格が必要となる業務や、第三者による公平な判断が必要な業務は、必要な許認可・免許・資格を有する事業者へ委託する。委託業者の選定にあたっては、県内事業者への優先的な発注を行う。	事業計画どおり実施 ・設備の保守管理などを専門業者に委託を行ったほか、第三者による利用者満足度の分析を行うため、公園マネジメントを熟知しているコンサルタントに委託した。	・提案内容のとおり実施しており、今後も、適切な施設管理の継続と利用者ニーズを踏まえた公園マネジメントの充実にも努めてもらいたい。	○			
	(2) 施設の維持管理	都市公園施設及び植物の維持管理業務の実施方針	10	9	公園の特性と課題を踏まえた維持管理の考え方	○ 実施体制、技術力の活用、安全管理の徹底、管理マニュアル、チェックリストによる維持管理、コスト管理の徹底、PDCAマネジメントサイクルによる管理水準の向上を基本的考え方とし、公園の特性と課題を踏まえた適切な維持管理を実施。 ○ ゾーン別の特性と課題を踏まえ、運営管理業務の内容及び基準、ゾーン別管理運営方針に基づき年間維持管理計画を作成し、適切な維持管理を実施。	事業計画どおり実施 ・生命の星地球博物館学芸員の助言のもと、生態系の保護ゾーンを設定し、実施回数や時期を適正にした維持管理を実施した。 ・利用者による人気のローラー滑り台近くの「スイセンの名所づくり」など、見所となる大規模花壇の創出を行った。	・提案内容のとおり実施しており、引き続き、公園の特性を活かした修景など、更なる魅力ある公園づくりを進めてほしい。	○	○		
					施設保守点検業務、小破修繕業務等の実施方針	○ 定期的・計画的な施設点検・保守（予防保全）と日常点検による異常の早期発見・早期正が、安全性の確保および施設の長寿命化につながると考え、維持管理担当スタッフによる日々の管理と、専門業者による安全性の高い管理を合わせ、ゾーン別管理運営方針に基づいた計画的維持管理を行うことで、安全・安心な快適空間を実現する。	事業計画どおり実施 ・利用頻度の高いローラー滑り台は日々の安全点検を確実に、安全確保に努めた。 ・陽だまりの丘の修景池・流れの維持管理において、放水が地域の水田に影響を及ぼさないよう実施時期や放水量に留意して実施した。	・提案内容のとおり実施しており、引き続き、日々の施設点検による安全確保や管理実施に伴う公園周辺地への影響に配慮するなど、適切な管理運営に努めてもらいたい。	○		○	月例業務報告
					清掃業務、受付業務、警備業務等の実施方針	○ 「日常清掃の徹底」「快適な施設環境を保つための重点的な清掃」「トイレの重点的な清掃・快適な雰囲気作り」「衛生面についての注意・啓発」に取り組む。 ○ 利用者が「訪れやすい」パークセンターにするため、必要に応じてレイアウトの変更や案内表示の工夫等を行う。 ○ 1日2回（朝、夕）の定時の園内巡回と、ランダムな園内巡回のほか、定時での監視カメラやパークセンターからの目視確認により異常の有無確認等を行う。	事業計画どおり実施 ・直営による日常清掃で、快適に利用いただけるよう努めた。 ・パークセンターのクラフトコーナー、学習コーナーを利用しやすくするよう取り組み、利用者満足度アンケートで満足の見解が多かった。 ・日常点検も事業計画書のとおり実施した。	・提案内容のとおり実施しており、引き続き、快適に利用しやすい利用環境の維持、改善への取組を継続してほしい。	○		○	月例業務報告
					樹林地や草地管理、樹木、芝生、草花などの植物管理業務等の実施方針	○ 公園の財産である植物を中長期的な視点で管理する。また、これまでの管理運営経験に基づく年間作業計画や、独自の植栽管理マニュアルを整備し、管理の質のバラツキを解消し、高品質な植物管理を行う。	事業計画どおり実施 ・生命の星地球博物館学芸員の助言のもと、生態系の保護ゾーンを設定し、実施回数や時期を適正にした維持管理を実施した。 ・モウソウチクとマダケの収穫体験イベントを行うなど、竹林のリサイクルを図る管理を行った。	・提案内容のとおり実施しており、今後も生態系の保全や資源循環の取組などを継続、拡大しながら、高品質な植物管理に努めてもらいたい。	○		○	月例業務報告

評価項目					審査（評価）の視点 (C)	提案内容 (D)	指定期間 令和4年度の事業実績 (E)	所管課による課題分析等 (F)	事業実績の確認方法 (G)				
選定基準 大項目	選定基準中項目 (A)	小項目 (B)	配点	選定時の 評価点					実績報 告書	現地※	その他		
I サービスの向上	(3) 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金	利用促進の取組	10	9	公園の特性や利用状況(繁忙期・閑散期等)、新しい生活様式などの社会状況に応じて、多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等(有料施設は除く)	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する小田原フラワーガーデンとの合同イベントや地元で親しまれる公園まつりのほか、季節の収穫体験や環境学習のイベント、未病改善イベントなど自然を満喫しながら、心身がリフレッシュできる魅力あるイベント等を実施し、再来園による利用促進を図る。 バス停の移設により、利便性の向上及び障がい者へ優しい環境づくりを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね事業計画どおり実施 ワンワンDAYは年2回、各回ワンワン教室を含めて5件のイベントを実施した。 春フェスは雨で6件のイベントを中止した。 ほしぞら映画会は雨を押し「SING」を上映した。 熱気球体験搭乗会は25組83名全員に体験いただけた。 小田原フラワーガーデンと合同で年4件のイベントを実施した。 年9件の環境学習イベントを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね提案内容のとおり実施しており、いずれのイベントも大盛況であった。これらの利用促進イベントは、適正な施設維持管理に基づくことから、引き続き取組を継続していくことが望まれる。 バス停移設による利便性の向上については、関係機関との調整を進めてほしい。 	○	○	○	月例業務報告	
					有料施設における利用者増及びサービス向上に資する事業の実施方針、内容	<ul style="list-style-type: none"> 本公園の利用者満足度調査において、売店や自動販売機の要望が多く寄せられており、利用者の一層の利便性向上のため、増設を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 設置許可のもと、自動販売機をパークセンター外と多目的広場に各1台、計2台を増設した。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり実施しており、計5台となったことから、公園管理に還元できる収入も増えた。 公園利用者の利便性向上のためにも自動販売機の設置を継続することが望まれる。 	○	○	○	月例業務報告	
					多くの利用を図るために行う広報・情報発信の工夫等	<ul style="list-style-type: none"> イベントの規模、種類によって集客したいターゲット層を定め、エリアや属性、年齢層に応じ媒体や配布先を使い分け、SNS、ホームページ、伊豆箱根グループの鉄道・路線バスを活用した広報など、様々な情報発信を行うとともに、集客効果の検証・フィードバックを行い、効果的な広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 ホームページによる情報発信に注力し、アクセス数は67,664件だった。 パンフレットを一部改定・配布した。 毎月のイベント情報チラシを65箇所年55,626部配布した。 伊豆箱根鉄道大雄山線の車内トビラ額広告と飯田岡駅看板広告を実施した。 テレビドラマのロケ1件に対応した。 箱根園の各施設にパンフレットを配架した。 ロケ対応都度で紹介を依頼してきて、問い合わせに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり適切に実施していた。 コロナ禍で外出が制限される中、ホームページ検索による来園者も多く見られた。 ドラマの撮影や取材などは、いずれもローラー滑り台に関するものが多く、今後も本公園の特徴的な施設として、広く周知していくことが望まれる。 			○	月例業務報告	
					公園の特性をより効果的に活かすために行う自主事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の満足度向上のため、BBQ場運営、ドッグランの運営、移動販売車による飲食物等の提供を自主事業として行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施に向けて調整中 BBQコーナーの拡大は、県との協議が整わず実施できなかった。 ドッグランの設置は、イベントでの実施結果を踏まえ、県との協議を継続した。 移動販売車による飲食物等の提供は、イベントと併せて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のBBQ場新設が実現可能な広場が見当たらないため、実施について調整中である。 ドッグランについては、令和5年度から始めたイベントによる実績を積み上げながら、多くの利用者の合意形成や運営方法の検討、設営場所の検討を進めていくことが望ましい。 	○	○			
					利用料金の設定、減免の考え方(有料施設がある場合のみ)	○ 該当なし							
	(4) 事故防止等安全管理	日常の事故防止、緊急時の対応	利用者対応・サービス向上の取組	5	4	接客や利用者との対話、公園利用ルールの利用者への助言、指導等の考え方	<ul style="list-style-type: none"> おもてなしサービスの提供 心地よいサービス やさしいサービス：ユニバーサル対応、環境への対応。 楽しいサービス：園内の展示工夫等 頼れるサービス：トラブル解消、苦情対応等 公園ルール作りと不適切な公園利用状況、利用指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 利用者からの意見を傾聴し、その方に寄り添った対応を心掛けた。 接遇マニュアル・ユニバーサルサービスマニュアルに従い、おもてなしサービスに努めた。 安全対策マニュアルに従い、利用状況を巡回・監視し、親切的な利用案内や注意喚起に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり適切なサービス提供に努めており、利用者アンケートにも、スタッフの態度が良いという回答が、複数見受けられる。 引き続き、利用者への丁寧な対応とサービス提供に努めてほしい。 	○	○	○	月例業務報告
						サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等	<ul style="list-style-type: none"> 「公平な利用者の声の反映」を目指し、下記の図の流れで対応を実施し、管理運営の質の向上・利用者満足度の向上を図る。 ①収集・把握(多様な利用、意見把握) ②情報分類・分析(意見の分類、対応の検討) ③対応・改善(フィードバック) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 年379件の利用者満足度アンケートで要望・意見の把握に努めた。 月毎に分析し、対応を検討した。 随時運営に反映するとともに、252件で第三者評価を受け、その後の運営に反映した。 年間を通してアンケートを継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり適切に実施していた。 利用者アンケートによる要望事項に対し、すぐに検討して対応するなど、利用者満足度の向上に努めており、今後も利用者目線での業務改善の取組を継続してほしい。 	○	○	○	月例業務報告
						外国人、障がい者、高齢者等誰もが円滑に施設利用するための、コミュニケーションにおける工夫及び必要に応じた支援の方針	<ul style="list-style-type: none"> 以下について取り組む。 話しかけやすい環境づくり わかりやすい情報の掲示・発信 コミュニケーションを円滑に行うためのツールの活用 ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン対応 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 英語版公園リーフレット、筆談ボード・コミュニケーション支援ボード、段差なし園路案内図等を常備し、活用した。 受付対応者が手話で挨拶し、文字起こし・翻訳アプリを使いこなせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり実施しており、様々なコミュニケーション手段によるサービス提供の継続により、誰もが利用しやすい公園となるよう、適切な運営に努めてもらいたい。 	○			
						神奈川県手話言語条例への対応	<ul style="list-style-type: none"> 以下について取り組む。 手話による挨拶の取組 わかりやすい情報の提供 コミュニケーションツール等の活用 手話通訳付きのイベントの実施 手話の普及・手話学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね事業計画どおり実施 コミュニケーションボードを受付に常備した。 文字起こし・翻訳アプリを使いこなせるようにした。 手話通訳付きのイベントの実施や手話に対する普及、手話学習の推進については、今後の課題とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね提案内容のとおり実施していたが、手話による利用促進の実現に向け、課題検証を通じて代替策を行うなど、取組を進めてほしい。 	○			
				10	9	指定管理業務を行う際の公園の特性を踏まえた事故防止等の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安全を最優先に確保することを第一に、公園の特性を反映した「安全対策マニュアル」を活用して、事故防止等に取り組む。また、園内危険箇所や重点点検箇所を明記した「ハザードマップ(点検所要マップ)」を活用した点検等により事故発生の未然防止に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 安全対策マニュアルに従い、維持管理・点検、巡回・監視、利用案内・注意喚起を行い、事故防止・防犯に努めた。 日々の安全ミーティング・危険予知活動時にハザードマップを参照し、活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり、マニュアル等を活用したリスクの把握と共有、情報発信を行いながら、事故防止に努めてもらいたい。 	○			

評価項目					審査（評価）の視点 (C)	提案内容 (D)	指定期間 令和4年度の事業実績 (E)	所管課による課題分析等 (F)	事業実績の確認方法 (G)			
選定基準 大項目	選定基準中項目 (A)	小項目 (B)	配点	選定時の 評価点					実績報 告書	現地※	その他	
I サービスの向上	(4) 事故防止等安全管理	日常の事故防止、緊急時の対応	10	9	樹林地の過密化や巨木化等に起因する災害を未然に防止する点検等の考え方	○ 都市公園の樹木は、過密化、高齢化、大径木化が進行しており、倒伏や落枝による重大な事故等の発生リスクの高まりが懸念されており、樹木の持つ機能や効用の増進と樹木の安全性の確保を、継続的に両立するため、樹木の点検・診断を適切かつ確実にを行うことにより、公園利用者の他、公園周辺の地域住民の安全性の向上を図る。	事業計画どおり実施 ・安全対策マニュアルに従って点検し、公園シンボルツリー（スタジイ）の剪定、その他の枝下ろし等、適切な維持管理を行った。 ・市販のクリアファイルで作るカシナガのトラップ（TWT）によるナラ枯れ対策に注力した。	・提案内容のとおり行っており、安全点検や剪定、ナラ枯れ樹木へのトラップ設置など、引き続き、ナラ枯れ被害の拡大防止や枯損木による利用者への被害防止に努めてもらいたい。	○	○	○	月例業務報告
					事故・不祥事等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事案を認知した際の対応方針（対応方針には、利用者に外国人や障がい者、高齢者が含まれていた場合を含む）	○ 事故・不祥事の発生時には、利用者の安全を最優先として、二次被害を防止し、被害を最小限に留める対応を徹底し、報告フローにより準じて対応する。その後、再発防止対策への対応を行う。	事業計画どおり実施 ・事故者救護を最優先し、二次被害防止の対応を行うと共に、家族・関係先への通報、状況等を記録した。 ・事故に係る情報は、朝礼や記録の回覧により職員間で情報共有し、報告フローにより、関係機関との情報共有を図った。	・提案内容のとおり、事故発生時の利用者の安全確保について迅速に対応をしている。引き続き事故発生後の適切な事後対応に努めてもらいたい。	○	○	○	月例業務報告
					急病人等が生じた場合の対応 救急救命士等の配置、救命に関する職員研修等	○ スタッフには救命救急講習で心肺蘇生法・止血法・AEDの使用法等救命救急技能を習得させており、必要に応じて迅速かつ適切な対応をし、急病人等が発生した場合には、「安全対策マニュアル」に従い、症状や怪我等の状況を確認し、速やかに保護（救助）および応急手当てを行い、必要に応じて病院へ搬送する等の対応を行う。	事業計画どおり実施 ・パークセンター受付にAEDを常備し、日常点検で必要に備えた。 ・スタッフへの教育・訓練は、年2回の防災訓練時に、動画マニュアル（AEDを使用した救命の手順）を視聴し、手順を含む対応方法の習得を行った。	・急病人対応はなかったが、スタッフの救命救急講習の受講や機器の操作方法の習熟度を高めていくことで、常に万全の準備をしておくよう努めてもらいたい。	○		○	月例業務報告
					新型コロナウイルス等の感染症に対する対応方針	○ 新型コロナウイルス感染症等に対する予防措置を十分にを行い、緊急時においても公園の社会的効用を最大限に発揮できる環境づくりを行う。スタッフの対策、利用者に向けた日常的な対策、イベント時における対策を国や県等の方針に従い行う。	事業計画どおり実施 ・掲示と放送で基本的な感染症対策を守っていただくようお願いしながら運営した。	・提案内容のとおり適切に実施しており、今後、新型コロナウイルス感染症に係る特別な対応を行う際は、マニュアルの活用による適切な対策の実施を期待する。	○	○	○	月例業務報告
	災害への対応 (事前、発生時)	5	4	異常気象（大雨、台風、熱中症アラート等）への対応方針（事前、初動、発生時、応急復旧時）	○ 独自の安全対策マニュアルを作成し、緊急時に備えて体制を整えるとともに、地域ネットワークを活用した応援部隊の派遣、救援資機材の提供等のバックアップを行う。また、隣接する小田原フラワーガーデンと情報共有し、避難所としての受け入れや、避難誘導体制を整備する。	事業計画どおり実施 ・安全対策マニュアルを作成し、組織体制・連絡フロー・対応手順を定めた。 ・広域避難所二次施設・風水害避難場所としての運営は、小田原市の主導により協働することとしているが、昨年度は避難所等の運営は生じなかった。 ・荒天が予想された際や警報発令時には、速やかにパトロールを行い、異常の有無確認により、利用者の安全確保と施設の保全に努めた。	・提案内容のとおり、有事を想定した取組を行っていた。 ・避難所等の開設が求められた際は、適切に運用ができるよう、関係機関等との連携継続や訓練、防災イベントなどを通じ、常に意識をしていくことが望ましい。 ・警報発令時の安全点検パトロールによる随時報告による情報共有について、引き続き努めてもらいたい。	○		○	メール連絡	
				公園の「震災時対応の考え方」に示す初動体制等への対応	○ 地震発生時には県が示す「震災時対応の考え方」や独自の安全対策マニュアルに基づいた対応フローにより、迅速に対応を行う。勤務時間外は構成員のスタッフが参集（車で約5分）し、園内巡回を行う。	昨年度は実施無し ・安全対策マニュアルを作成し、組織体制・連絡フロー・対応手順を定め、地震発生に備えた。	・提案内容のとおり体制を整えており、震災発生時に円滑な対応ができるよう、引き続き体制の確保や運用が図られるよう努めてもらいたい。	○				
				大規模災害発生時の公園の特性、立地状況等に合わせた災害対応の考え方（地域との連携、防災訓練、災害発生時の協力等）	○ 大規模災害発生時の二次広域避難場所として、利用者や近隣の方々の避難誘導や、避難者の受入対策等が適切に実施できる体制・備えを整える。 ○ スタッフの訓練・研修や、小田原市消防本部等及び近隣施設と連携した合同防災訓練を定期的実施する。	事業計画どおり実施 ・広域避難所二次施設・風水害避難場所としての運営は、小田原市の主導により協働することとしているが、昨年度は避難所等の運営は生じなかった。 ・小田原消防署への通報訓練を含む防災訓練を年2回実施し、小田原フラワーガーデンと合同の防災体験イベントを小田原警察署と神奈川県警音楽隊の協力で実施した。	・提案内容のとおり訓練を行うなど適切に実施していた。 ・関係機関との定期的な連携を維持しながら、大規模災害発生時の避難所等の運営に万全を期すよう、努めてもらいたい。	○		○	月例業務報告	
	(5) 地域と連携した魅力ある施設づくり	地域との連携体制、取組	5	4	多様な主体（地域人材、自治会、関係機関）との連携、協力体制の構築等の取組内容	○ 地元人材の雇用や連携を積極的に進めるとともに、地域で活動する方々の作品発表の場として公園を活用するプログラムを実施する。また、観光協会や商工会議所、小田原市の関係機関と多様な連携を行う。	事業計画どおり実施 ・小田原フラワーガーデンと合同で年4件のイベントを実施し、双方の広報活動でも連携した。 ・神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会の加盟施設として、加盟施設による「ミュージアム・リレー」を行い、連携を図った。 ・年132件のイベントのうち、47件を地域との協働により実施した。	・提案内容のとおり、公園隣接施設との合同イベントや広域イベントへの参画のほか、地域との協働イベントは全イベント数の3割以上行っており、今後も多様な主体との連携による取組を継続していくことが望まれる。	○		○	月例業務報告
					ボランティア団体等の育成・連携、協働の取組内容	○ 地域の方々がやりがいを感じながら活動できる場の形成、協働による利用者サービスの向上を目指して、公園におけるボランティアの活動支援と育成に積極的に取り組む。 ○ イベントを絡めたボランティア活動や、「その日限定」といった小規模イベントで参加者を募り、ボランティアとの連携、協働に取組、これらの活動を通じて、段階的にボランティア組織の立ち上げを図る。	概ね事業計画どおり実施 ・公園ボランティア組織の「みかんの会」の活動の目的・方針、スケジュール・ルール等の説明会と体験会を開催した。 ・小田原市施設のボランティア組織の「フラワーガーデン友の会」との連携は感染症対策で中止した。	・概ね提案内容のとおりボランティア活動の支援を行っていた。 ・公園ボランティアの育成や活動の拡大、隣接施設のボランティア組織との連携を継続的にを行い、公園と地域の協働の機会の提供に努めてもらいたい。			○	月例業務報告
					周辺施設（他の公園・施設等）との交流・連携の内容	○ 隣接する小田原フラワーガーデンや近隣の施設との連携し、一体的な広報・情報発信や連携イベントを積極的にを行う。	事業計画どおり実施 ・小田原フラワーガーデンと合同で年4件のイベントを実施し、双方の広報活動でも連携した。 ・神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会の加盟施設として、加盟施設による「ミュージアム・リレー」を行い、連携を図った。	・提案内容のとおり、隣接施設との合同イベントや広域組織によるイベントへの参画、広報を行っており、今後も近隣施設との交流や連携の充実に向け、更なる取組を進めていくことが望まれる。	○		○	月例業務報告

評価項目					審査（評価）の視点 (C)	提案内容 (D)	指定期間 令和4年度の事業実績 (E)	所管課による課題分析等 (F)	事業実績の確認方法 (G)			
選定基準 大項目	選定基準中項目 (A)	小項目 (B)	配点	選定時の 評価点					実績報 告書	現地※	その他	
I サービスの向上	(5)	地域と連携した魅力ある施設づくり	域との連携体制、取組	5	4	地元企業への業務委託等による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 委託業務については優先的に県内企業へ発注することで効率化を図るとともに、地域経済の活性化や、迅速できめ細やかなサービス提供、環境負荷軽減に配慮する。 イベント等で使う材料や花苗については地元特産品を地元企業に発注することで、その由来や地域の歴史解説等を織り交ぜたプログラムを実施します。地域文化の伝承や郷土愛を育み、地産地消の促進や、利用者の満足度向上につながるような工夫をする。 業務委託先企業との協力体制を整え、緊急時や災害発生時における連携や、災害後の速やかな清掃・整備作業の実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね事業計画どおり実施 委託業務は、全33件中、26件を県内企業へ発注した。 花苗や肥料についても、地元企業への発注に努めた。 委託業務の植物管理は、見積合わせを行った8件全てを市内企業へ発注しており、緊急時に協力を得やすい関係性の維持を図った。 地産地消の推進に取組んだが、利用者の満足度向上につながるプログラムの展開には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね提案内容のとおり実施しているが、現在の取組を継続していくと共に、今後は地産地消など、地域のオリジナリティを活かした利用者満足度の向上に向けた取組を進めていくことが望ましい。 	○		
						指定管理業務を実施するために必要な団体等の企業倫理・諸規程の整備、施設設備の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令遵守の徹底に向けた取組の状況（労働条件審査の実施予定など施設職員に係る労働条件の確認の有無を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な内部・外部講習による労働関係法令を含めた法令研修の実施、業務内容をまとめたオリジナルの各種業務マニュアルの作成等を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 職員への基本研修を2回実施し、労働関係法令等の理解促進に取り組んだ。 コンプライアンス推進活動として、コンプライアンスマニュアルの各行動指針について、職員間で毎週読み合わせを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり、今後もコンプライアンス研修を継続し、引き続き適切な労働環境の確保に努めてもらいたい。 			○
III 団体の業務遂行能力	(6)	I サービスの向上	コンプライアンス、社会貢献	5	4	指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況	<ul style="list-style-type: none"> 将来につなぐ、良好な環境の保全と創造、「恵み豊かな地域環境づくり」、「持続可能な社会づくり」、「協働・連携を進める人づくり」の実現にむけ、自然環境の保全（再生）と自然共生型社会の実現、低炭素社会の構築、循環型社会の形成に配慮した取組を実施する。 本公園の自然環境保全方針に基づき、多様な植生を保全し、生物多様性と緑地の機能を適切に保つことで、多様な生物の生育環境となるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 植栽管理による発生材（伐採木や落ち葉、刈草）は、「緑のリサイクル」として、再利用に努めた。また、除草に際しては、実施時期や刈高を変えるなど、生物の多様な生息環境の確保に配慮をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり実施していた。 伐採木のチップ化やクラフト材料に再利用するなどの発生材の有効活用による循環型社会の形成への取組や草地の生物多様性の確保への配慮など、今後も、環境配慮への取組を継続していくことが望まれる。 	○		
						法定雇用率の達成状況等、障害者雇用促進の考え方と実績	<ul style="list-style-type: none"> 障害者雇用状況については、法定雇用率について横浜緑地と加藤造園は達成している。伊豆箱根鉄道は未達成となっており、障害者雇用について、特別支援学校などの機関に積極的に求人活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 代表企業から伊豆箱根鉄道に法定雇用率の達成について働きかけたところ、障害者雇用の採用活動を継続強化することとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり適切に実施していた。 伊豆箱根鉄道は、法定雇用率が達成できるように積極的に募集を行うなど、取組を強化していくことが望まれる。 	○		
						障害者差別解消法に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の主旨を踏まえた取組	<ul style="list-style-type: none"> グローバルスタンダードとなっているノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン、ダイバーシティの3つの理念を加え、誰もが快適・円滑に施設を利用するため、外国人、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者、車いす利用者、妊婦、LGBTの人など、多様な利用者それぞれの特性やその特性による不便さを理解することに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 英語版公園リーフレット、筆談ボード・コミュニケーション支援ボード、段差なし園路案内等を常備し、活用した。 受付対応者が手話で挨拶し、文字起こし・翻訳アプリを使いこなせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり実施していた。 今後も、誰もが快適・円滑に公園を利用できるよう、引き続き、運営面での環境整備に努めてもらいたい。 合理的配慮の提供は、令和6年4月から事業者に義務付けられることから、積極的な研修等により、現場レベルで反映していくことが望まれる。 	○		
						神奈川県手話言語条例への対応	<ul style="list-style-type: none"> 以下の整備を進める。 手話も重要なコミュニケーション手段として、海外の言語と同じように利用できる環境を目指す。 公園を手話が使いやすい環境として整備を進める。 公園として全ての人々が相互に人権と個性を理解し手話の利用に関しても配慮する環境整備を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね事業計画どおり実施 コミュニケーションボードを受付に常備した。 文字起こし・翻訳アプリを使いこなせるようにした。 手話通訳付きのイベントの実施や手話に対する普及、手話学習の推進については、今後の課題とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね提案内容のとおり、手話利用者とのコミュニケーション手段の確保を図っていた。今後も継続していくことに加え、手話の普及や手話利用者の公園利用の拡大に向けた取組を進めていくことが望ましい。 	○		
						社会貢献活動等、CSRの考え方と実績、SDGs（持続可能な開発目標）への取組	<ul style="list-style-type: none"> （SDGs）以下について取り組む。 緑のリサイクル事業：剪定枝や草刈りをリサイクルした堆肥等 緑化推進・普及啓発 新たな技術・ソリューションの活用 プラスチックごみ削減の推進 ISO9001・ISO14001 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね事業計画どおり実施 間伐材・剪定枝や刈草をそのままクラフト材料に加工あるいは粉碎してぬかるみ対策やマルチング材として活用したり、集積して土に戻す等、緑のリサイクルに努めた。 緑化推進として、皇帝ダリアの挿し穂プレゼントを行った。 新たな技術等の活用には至っていない。 オリジナルはちみつ商品の脱プラスチック、レジ袋の有料販売を行った。 ISO認証は取得済みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね提案内容のとおり実施していたが、引き続き、SDGsや社会貢献の視点による業務の積極的な実施を期待したい。 	○		
(7)	事故・不祥事への対応、個人情報保護	事故・不祥事への対応、個人情報保護	5	4	募集開始の日から起算して過去3年間の重大な事故または不祥事の有無ならびに重大な事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況	<ul style="list-style-type: none"> 過去3年間の重大な事故・不祥事はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度に重大な事故、不祥事はなく、適切に業務を遂行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当する案件は生じなかったが、引き続き、事故・不祥事防止に取組んでいくことが望まれる。 	○			
					個人情報保護についての方針・体制、職員に対する教育・研修体制及び個人情報の取扱いの状況	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用やイベントの申し込み、ボランティア活動等において個人情報を取り扱う場合には、個人情報の重要性を認識し、関連法令に則り、実効的な手段と定期的な研修等により個人情報の保護を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画どおり実施 個人情報保護マニュアルに基づき、情報の適切な取扱いや管理を行った。 職員研修として、年2回の基本研修により、個人情報保護の徹底を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容のとおり適切に実施しており、引き続き、個人情報保護を徹底し、適切な業務の実施に努めてもらいたい。 	○			

※「事業実績の確認方法(G)」欄のうちの「現地」の欄は、「指定期間 令和4年度の事業実績 (E)」欄の実績を現地で確認したことを示すもの。

選定基準別提案内容と事業実績の確認
(施設写真)

施設名	おだわら諏訪の原公園
指定管理者名	おだわら諏訪の原公園パートナーズ
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設所管課	都市公園課（県西土木事務所小田原土木センター）

※施設の概要が分かる写真を3～4枚程度掲載



パークセンター



多目的広場



ローラー滑り台



ワンワンDAY仮設ドッグランイベント